

IAQGバルセロナ会議について

1. はじめに

IAQG（International Aerospace Quality Group）バルセロナ会議が、2025年4月7日（月）～10日（木）に開催された。なお、一部の会議は4月4日（金）から始まっており、日本からも担当メンバーが参加している。

IAQG会議は、年2回（春、秋）開催を計画されており、今回は2024年10月に東京にて開催されている。JAQG（Japanese Aerospace Quality Group）からも数多くのメンバーが対面およびオンラインで会議に参加した。

開催場所はバルセロナの南西約35kmに位置するシッチェスと言う街であり、バルセロナからは列車で1時間ほどの日帰り圏内である。典型的な地中海性気候であり、会議期間中は天候にも恵まれ、日中は暑いほどであったが、空気は乾燥しており日陰は涼しく、過ごしやすい気候であった。

出国前より、Single-SDOにおける翻訳、審査厳格化の移行再開の見通し、OASIS料金再改定などの問題があった上、先乗りメンバーからは9100規格の部分改正が早々に計画されているとの情報もあり、課題山積のスタートとなった。

以下に会議の様子について示す。



会議会場（Hotel Melia Sitges）

2. IAQGの概要および会議概要

国際航空宇宙品質グループ（IAQG）は、世界の航空宇宙及び防衛関連企業が互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい改善とコストの削減を実現する活動を推進するために1998年に設立された民間組織であり、アメリカ地区のAAQG（Americas Aerospace Quality Group）、アジア太平洋地区のAPAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）、ヨーロッパ地区のEAQG（European Aerospace Quality Group）により構成される。

JAQGはAPAQGの主たるメンバーであり、航空宇宙における品質マネジメントの最新状況を把握するとともに、日本の航空宇宙産業界の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度に反映させるべく活動を行っている。SJACはJAQG事務局に加えて、APAQG事務局の役割も担っている。

いずれの組織も常勤専従職員はおらず、航空宇宙関連企業の従業員により構成されており、各企業のボランティア活動により支えられている。



シッチェスとバルセロナの位置関係



IAQG組織 (<https://jaqg.sjac.or.jp/about/index.html>)

IAQGの主な活動目的は次の3点である。

- ・ 航空宇宙業界独自規格（9100シリーズ規格）の制定及び維持
- ・ 品質改善のためのガイダンス資料の提供
- ・ 9100シリーズ認証制度の開発及び維持

会議は、各種分科会から始まり、IAQGプレジデント及び各セクターのリーダーによる執行委員会（Executive Committee）、Voting Member（以下、投票メンバー）が参加するOperation Councilと続き、最終日にIAQG総会が行われ、中長期戦略の検討及び作業進捗状況の確認・調整等が行われる。これらについては後述する。

IAQG全体で27社の投票メンバーのうち、JAQGは4社のメンバーを有し、ほぼ全ての会議へ積極的に参画しており、我が国及びアジア太平洋地区の代表としての意見をIAQGに提案及び反映する活動を行った。

以下、実際の時系列とは異なるが、理解しやすさを第一義として、まず総会の概要について述べ、続いて各種分科会について述べる。

（1）総会（General Assembly）

総会は、IAQGプレジデントによる執行委員会報告に始まり、各セクターリーダー（AAQG、EAQG、APAQG）からのセクター活動報告、Performanceレビュー報告、COT（Certification Overt-sight Team）報告に続いて、各分科会活動の進捗報告という順番で行われた。

執行委員会報告ではIAQGによる各種Digital化への取り組み、OMS（Operation Management Team）チームとPerformanceチームを統合するという、組織変更について報告され、セクター報告では、各セクターリーダーより、メンバーの加入状況、活動報告がなされた。

APAQGからは、リーダーである川崎重工業(株)の上原氏より報告がなされた。

総会の決議事項は下記の2件であり、いずれも27名の投票メンバー（AAQG：10名、EAQG：10名、APAQG：7名）により承認された。

1. 2024年10月の東京会議議事録の承認
2. 2023年IAQG決算の承認



Eric Jefferies氏（IAQGプレジデント）



（川崎重工業㈱：上原氏（APAQGリーダー））



@IAQG

総会の様子

なお、APAQG投票メンバーのうち、4名がIAQGから選出されている。

(2) 執行委員会

執行委員会は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議する委員会（月例）である。

今回は、①9100認証規格移行作業に関する認定機関及び、認証機関との調整、②航空宇宙品質マネジメントシステム認証データベース OASIS（Online Aerospace Supplier Information System：IAQGが開発したWebペー

スのデータベースシステムであり、全世界の9100、9110、9120認証取得組織の情報が登録されている）の新機能付加に関する説明及び利用方法、③9150規格開発作業状況確認、④IAQG内部組織の再編（運用手順管理と有効性評価）作業状況確認、⑤2024年決算及び、2025年予算執行状況と総会提案資料確認、について議論した。

(3) IAQG Operation Council

IAQG Operation Council（以後、OPC会議という）は、IAQG会長、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー、各分科会リーダー

及びIAQG投票メンバーの参画により運営され、各分科会の活動方針の検討・設定等が行われる。通常はOPC会議として4時間計画されるが、今回はOPC会議の前にIAQG投票メンバーだけの会議が1時間計画され、その後3時間OPCの会議となった。いずれも有資格者だけが参加できるclosed会議であるため、ここでは詳細は記述せず概要を記載する。内容の主な項目については本稿（1）のGeneral Assemblyでも報告された。

<IAQG投票メンバー会議>

- ・投票メンバーの権限強化や、データを活用した活動を推進していく方針の説明
- ・特に、スピード感を持った対応についての重視
- ・上記方針に係るOASIS Insightの説明

<OPC会議>

- ・OPCの今期の開催予定
- ・最新のSCMH（Supply Chain Management Handbook）活動状況について
- ・Certification Oversightの状況について
- ・新規格9150について
- ・OASIS Insightについて
- ・IAQGが認証する資格に関するトレーニングシステム開発の現状について

(4) Standard Council Meeting

IAQG Standards Council Meetingは各セクター代表の投票メンバー27名の参加により運営され、各Standardsの全体的な健全性とパフォーマンスの管理、IAQG AISEL IPポリシー（AISEL：Association Internationale Sans but Lucratif：国際非営利団体）への整合、航



Standard Council Meeting 参加者

（三菱重工業株：渡辺氏（階段上部中央やや左）、川崎重工業株：上原氏（階段中央前列）、株SUBARU：高橋氏（渡辺氏の左）、株IHI：池崎氏（階段上部右端から2人目））

空宇宙産業の技術的な向上、各Standards開発と保守に関するプロセスとツールの管理及び承認に責任を持っている。

今回は、以下のような議題に対して、報告及び議論が行われた。

- ・ 各Standardsのステータス／投票状況、
- ・ Standards Council の手順（投票結果の取り扱い変更）の提案
- ・ Standardsの各国語（ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、日本語、韓国語、中国語）への翻訳状況の説明
- ・ IA9100のマイナー変更プロセス
- ・ IAQG-1 Standards Management Committee の状況報告

なお、Standards Council の手順の変更提案については、継続協議となった。

(5) IAQG-1 Standards Management Committee

IAQG -ISM (Standards Management Committee) は、SAE会議として運営され、SAEの他、IAQGの-ISMリーダーシップの各メンバー、セクターリーダー及び-ISMとして投票権を持つメンバーが参加し開催され、規格策定に関わる方針や規格の検討状況、各セクターからの活動報告等が行われる。今回のバルセロナ会議では、SAE及び-ISMリーダーシップ、及び各セクターリーダーより、規格のBallotプロセス、Single SDO化に向けた翻訳プロセスの調整状況、Ballotプロセスに使用されるStandardsWorks (SAEが提供するプラットフォーム) の機能説明、規格のデジタル化の動向、各セクター



IAQG-1 SMCチーム
(JAQGから参加多数)

での規格に関わる活動状況、-ISMCのメンバーシップ状況、各規格の検討状況などの説明・報告が行われた。特に規格のデジタル化の動向では、規格のデジタル化に向けてDSA (Digital Standards Alliance) という組織が設立され、BoeingやLockheed Martin、AIA (Aerospace Industry Association)、SAEなどが参加、活動が始まっているとの説明があった。また規格の検討状況については、従来よりも時間を取って詳しい説明が行われ、9100や9110、9120などの既存規格の改訂検討状況の他、新たに開発をしている9150規格の検討状況やその適用を想定している組織(3つのカテゴリーあり)についても説明が行われた。

a 9100規格「航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項」

IAQG9100チームでは9100規格改正を進めてきた。改正のプロセスが適切であるかを評価する為、IAQG内で独立チームが立ち上げられ、2024年4月から改正作業をストップしていたが、2025年2月独立チームからの提案

がIAQGに報告され、9100規格改正作業が再スタートすることになった。独立チームから製品品質向上に寄与するような要求事項を9100規格に反映するよう提案があったことから、3セクター（米／欧／亜）でどの要求事項を強化したいかを事前に検討し、IAQGバルセロナ会議でそれぞれ提案することになった。アジアセクターでは各国（日／中／韓／印／シンガポール）のメンバーと協議し、サプライヤ管理、購買製品の検証、製品安全、トップマネジメントの製品品質に関する責任及び権限等を強化したいことを本会議で報告した。

また本会議中、IAQG会長のEric氏より、現行の9100規格に製品品質向上に寄与すると考えられるいくつかの要求事項をまず反映し、早期に規格を発行したいと要望を受け、9100チームで進め方を協議した。結果、3セクターから共通して強化したいと提案があったサプライヤ管理、購買製品の検証に関する要求事項強化及び明確化等を反映することに決定し、ドラフト案を作成した。今後、IAQG内



9100チーム集合写真

三菱重工業(株)：西口氏（後列中央）、川崎重工業(株)：田中氏（後列左端）

で調整／投票ドラフトを展開し、早期発行に向け作業を実施していく。

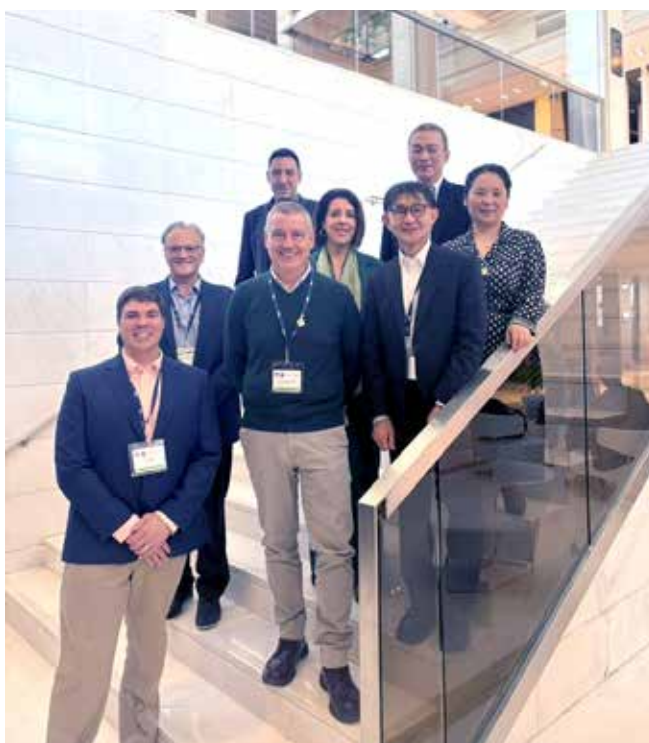
並行して、9100規格に新たに追加する要求事項及びISO9001改正（2026年予定）を反映した改正版についても協議し、2027年1月発行を目指し、改正作業を進めることについて、9100チーム内で合意した。

b 9110規格「航空分野の整備組織に対する要求事項」およびMRO

JAQGからは2名が参加。今回は8名が現地参加した。バルセロナ会議の初頭に9100マイナー改正の2025年秋発行方針が出たことへの対応協議から開始した。9100チームから提示されたマイナー改正内容が、検討してきた次期9110改正案へどのように影響を与えるかを、一文ずつ確認した。その結果、9100マイ

ナー改正は外注先への品質要求とそのフローダウンに関わるもので、9110規格としてすぐに追隨しての改正はしなくてよい、とした。9110リーダーは、すぐに9120リーダーと連絡を取り、この2つの規格は9100マイナー改正にすぐには追隨しない対応をとることになった。また、SCMH SMSチームに関連が深い9110の製品安全要求事項への改良提案があり、次期9110改正案に向けて内容検討することになった。（その後の会議で、9110、9120も9100に追従する事に方針変更された。）

一方、検討してきた次期9100改正案の中で、比較的早期に発行していくことが望まれているMROでのFirst Process Evaluation（FPE）：初回プロセス評価－製造品のFirst Article Inspection（FAI）：初品検査に相当）の項は、次期9110改正に先行し、SCMHとして今年中



9110 Writing Team
（前列右端：(株)IHI：山本氏、最後列：日本航空宇宙工業会：佐藤氏）

に発行することを決定した。

また、AIMM（Aerospace Improvement Maturity Model：9100成熟度モデル）に9110と9120も加える活動（AIMM Overlay）の説明がAIMMリーダーからあった。この活動の討議には9120リーダーも加わった。討議の中で、現行の9100AIMMの26モジュール中、そのまま9110や9120に使用できるのは、多くて3モジュールであることがわかり、目標の2026年での9100シリーズ統合版AIMMリリースに向けては、かなりの量の作業が短期間に要求されることが判明した。9110チームは、検討作業を分担して月例Web会議でフォローしていくことになった。

MRO全体についてもこのチームで情報共有を深めていくことが改めて確認され、アジア・太平洋地区、米州地区、欧州地区の状況を共有した。アジア・太平洋地区の状況は3月のAPAQG会議でまとめた資料を紹介した。民間機種に加えて、防衛機種で9110時要求事項を適用する政府機関や防衛組織が増えていることや、各航空当局の薬物・アルコール規制へ各地区とも、対応を急いでいること、などの状況が共有された。

盛りだくさんの活動内容に対して、チームワークとフットワークが良いチームであることを再確認した。

c 9101規格「QMS-航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する審査要求事項」

IAQG 9101 WritingチームのClosed会議は、4/8（火）と4/9（水）の2日間実施された。

9101 Teamのメンバーは、文書代表（IDS^{*1} 1名、SDL^{*2} 3名）計4名、業界代表3名、認証機関代表4名、書記1名の計12名で構成されており、今回は9名（うち3名がオンライン）が参加し、うち、日本からは、SDLと認証機関代表がアジアセクター代表として参加した。

今回から日本の認証機関代表もチームに加わり、文書代表と認証機関でコミュニケーションをとりながら意見を出しやすい環境となった。

（*1：International Document Sponsor、*2：Sector Document Liaison）

・9151（製品品質にフォーカスしたAQMS要求事項の審査要求事項）の開発構想について

9151の開発構想について、チームで協議を行った。

・9151のコンセプトチャートとして、「“価値をもたらす”審査」と、それを取りまく「スキーム」／「認証機関」／「審査員」／「組織」／「オーバーサイト」の主要フローとの関係を示した1ページプランが共有された。今後このチャートに従って詳細を議論していく。

・9151の目次案として、大項目は、「審査計画／準備／コミュニケーション」、「製品／工程審査」、「審査実施&報告」といった項目が、「製品／工程審査」の中の小項目は、設計要求事項の管理、形態管理、製造工程の適合性、などが示された。

今後、製造工程審査にフォーカスした規格要求事項を開発していくと考えられる。今後オンライン会議にて規格内容の開発を進める予定である。

・OASIS V3に追加された、NCR（Non Conformity Report）の“Repeat Nonconformity”の欄の議論

・OASIS V3の統計要素として上記の欄が3月末に追加されたことにより、規格の定義に照らし、チェックを入れる条件をチームで再検証した。チェックを入れる条件をFAQに明記し、9101のNCRの様式も変更する予定である。

・規格のデジタル化について

SAEのLeslie氏（Director, Digital Standard Development）より、規格のデジタル化についてチームメンバーに対してプレゼンがあり、質疑応答を行った。

- ・規格をマシンリーダブルにすることで、知的財産が活用され大きなビジネスとなる。
- ・規格作成者も、マシンリーダブルにすること（メタデータ化）への理解と習熟が必要となることから、スタイルガイドをSAEから提供予定とのことであった。
- ・9150と9151は、規格開発時にデジタル化を考慮していくことが想定される。

d 9125規格「非納入ソフトウェア要求事項」

9125（非納入ソフトウェア要求事項）は、9115（品質マネジメントシステム—航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項—納入ソフトウェア）と同一のライティング・チームとなっており、2日間にわたりリモート参加も含め10数名のメンバーが参加して9115および9125について議論がおこなわれた。

9125については、発行から間もないこともあり、発行後のプロモーション展開の状況やIAQG HPへの用語の定義の掲載状況、またトレーニング等の今後の方針について情報共有と話し合いが持たれた。

9115については、今後の改訂に向けたスケジュールの確認や9115改訂案の内容に対する協議、9100調整用改訂案（CD：Coordination Draft）に対するコメント（主に情報セキュリティに関して）のレビューが行われた。

(6) SCM H (Supply Chain Management Handbook) SMS (Safety Management System) Project

日本の3名のメンバーのうち、現地会議に

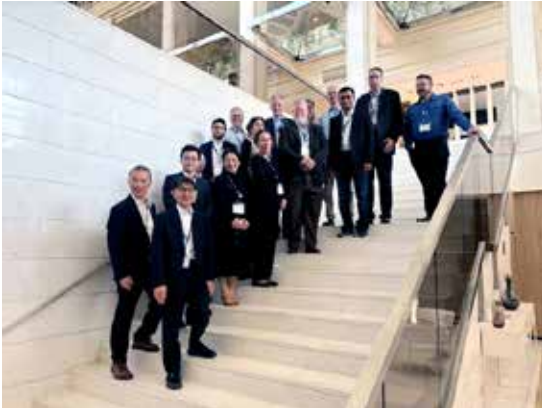
は2名が参加。IAQGのSCMH作成作業としては初めての試みとなる、想定ユーザー組織によるレビューを経て、3月初めにできあがったSCMH 7.22 SMSは、IAQG本部の最終チェックと発行手続きがバルセロナ会議開催中に完了し、正式発行の声を聞けることを想定して、啓蒙活動準備（ウェビナー作成、ポッドキャスト原稿作成など）を実施した。オープン会議であることと、FAAがMROに加えて設計・製造にもSMSを2026年初めに実行することを義務化していることから、会議に立ち寄る方が多かった。

バルセロナ会議の初頭に出された9100マイナー改正の2025年秋発行方針が、SCMH SMSにどのような影響があるかを調査するため、9100チームより意見が聴取され、チームからは製品安全の関連要求についてコメントを出した。

3日間の打合せの最終時間に、IAQG PSCI（Product and Supply Chain Improvement）本部から、IAQGリーガル担当のチェックが数か月～半年かかること、直ちに発行することを希望するのであれば図表やタイトルの言葉を削る必要があることが告げられた。これはIAQG PSCI本部も想定外の様子だった。本チームは、図表を削除してしまうとSCMHの意味をなさないものになってしまうことから、少なくとも半年待つことを選択した。

IAQGバルセロナ会議から一週間後、本SCMH SMSリーダーからリーガルチェックを合格して正式発行した、との通知が来た。リーダーがIAQGリーガル担当と密に調整作業を継続していた模様である。IAQGリーガル担当は、航空・宇宙・防衛分野以外の分野も含めた著作権を逐語チェックしたようであり、本当にそのリーダーシップと献身的な努力に頭が下がる。

多くの航空関係組織がSMS構築・実行のガ



SCMHチーム
最前列右：(株)IHI：山本氏
最前列左：日本航空宇宙工業会：佐藤氏



SCMHチーム会議の様子

イダンスを必要としているタイミングで本SCMHを発行できた意味は大きい。JAQG SCMHWGにて、このSCMH SMSの日本語訳作成を急ぐ予定である。

(7) 関係強化戦略分科会 (国際スペースフォーラム：International Space Forum)

スペースフォーラムは、9100シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓発を主たる目的として活動を行っており、JAQG スペースフォーラムは、APAQGの代表として出席している。本会議では、宇宙関連企業に加え、主要ステークホルダーである宇宙機関（NASA、ESA、JAXA）等が参加しており、ステークホルダーとの綿密な情報交換の場として、AAQG、EAQG、APAQG各セクターの活動報告や、国際スペースフォーラムとしての活動方針等、今後の宇宙製品及びサービス保証やスキームに対する提案等の議論が活発に行われた。

アジア太平洋のセクター活動として、ステークホルダーを含めた各国の活動状況共有等が実施されたことに加え、更なる関係

強化のためのプロモーション活動として、昨年11月にオーストラリアで開催されたAPRSAF-30（30th Asia-Pacific Regional Space Agency Forum）の結果共有と、本年11月にフィリピンで開催予定のAPRSAF-31に向けた計画を報告した。今後もAPAQGの代表として、セクター内の宇宙業界への啓発を図るとともに活性化を推進し、当該活動をIAQGへ反映出来るよう積極的に参画していく。

(8) 認証オーバーサイトチーム（Certificate Oversight Team：COT）

COTは、航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステム認証制度の運用に必要な規格（要求事項）の制定・維持、および認証制度の世界的な運用・管理等を行っている。今回の会議では、EAQG、AAQG、APAQGの3セクターから業界（主要製造メーカー）、認定機関（AB：Accreditation Body）、認証機関（CB：Certification Body）それぞれの代表者の参加のもと、9104-1移行再開に向けた状況確認、Resolution（規格要求事項を補足するルール）候補の確認、各セクターからの報告、AB/CBからのフィードバック、などが行われ

た。移行再開に向けた状況確認では、移行に必要な3要件（認証関係規格のIAQG翻訳対象全言語での発行、審査員トレーニングマテリアルの翻訳対象全言語での発行、OASISへの新機能追加のバージョンアップ）が確実に整ってきており、移行再開時期が間もなく見通し得る段階にきていることが確認され、今後はガントチャート（プロジェクトの進行状況を可視化するためのスケジュール管理表）等により移行の詳細スケジュールが議論・調整されていくこととなる。

(9) 製品およびサプライチェーン改善分科会
(PSCI: Product and Supply Chain Improvement)

本分科会は、製品やサプライチェーン改善のための活動支援を目的とした活動を行っている。その一つがSCMHの作成・維持であり、サプライヤが顧客の期待や組織目標を満たす

ための取組みについて、具体的な方法や優良事例を文書（ガイドライン）にまとめ提供している。

バルセロナ会議では今年度のSCMHリリース計画について議論し、今年度は6点のSCMH新規作成と1点の定期見直しを行うことを決定した。また、次年度以降のリリースを見据えた新たなSCMH開発企画についても協議を行い、開発ニーズの高さ、規格適合への貢献度、革新性などの評価項目による優先順位付けを審議の結果、新たに4点の企画を承認した。今後も引き続きSCMHの充実化とユーザー支援を継続していく。

(10) オペレーショナルパフォーマンス
(Operational Performance)

IAQGの活動の方向性や各チームの評価方法を検討してきたOMS (Operational Management System) チームと、活動結果の



Operational Performanceチーム
株IHl：池崎氏（後列左端から3人目）
APAQG事務局：服部氏（前列右端）
日本航空宇宙工業会：城福氏（後列左端から2人目）

評価を担当してきたPerformanceチームが合併し、新たにOP (Operational Performance) チームが発足した。このチームではIAQG内の各種活動の評価を一元的に行い、PDCA (Plan Do Check Action) を回していく役割を担う。具体的にはチームを3つの班に分けて、以下の役割で活動を進めることとなった。

- ①Document governance班：各プロシージャの改訂管理を行う
- ②Process performance班：各チームの評価方法を検討、決定する
- ③Stakeholder feedback management班：IAQGおよび各チームの活動評価を行い、フィードバックする

今後は、旧OMSチームが進めてきたプロシージャの改訂を継続して各チームのKPIを明確にするとともに、その達成状況を計測してIAQG幹部および各チームにフィードバックすることで、必要に応じた活動の見直しを促進していく。

(11) コミュニケーション (Communication Team)

コミュニケーションチームはIAQGホームページ、PodcastやLinked Inなどのコミュニケーションツールを用いて、IAQGの活動を広く浸透させることを目的として活動をおこなっている。今回の会議では主に関心の高いOASIS Insightのサポート方法を検討した。

まずは、関係するチームと協力して認証組織を対象にOASIS Insightの活用方法のウェビナーを開催することを検討することとした。また、FAQを2段階でIAQGウェブサイトに掲載予定で、まずは概要に関するもの、続いてそれまでのフィードバックを反映した詳細なものを掲載する方向である。

その他、完成間近のスマートフォン用IAQGアプリのテスト版の確認も行った。

下記写真前列中央のSusan Matson氏はIAQG Podcast (Quality Horizon : <https://iaqg.org/the-quality-horizon/>) のホストを務めている。このPodcastでは規格やAIMM、SCMH等々、



コミュニケーションチーム (Networking Dinnerにて)
 APAQG事務局：服部氏 (前列左端)
 日本航空宇宙工業会：城福 (後列)

IAQGの各担当者の生の声を聴くことができる。JAQGではメンバー向けにAI音声を活用した日本語翻訳版の配信も行っているのので、参考にして頂きたい。(https://jaqg.sjac.or.jp/member/member_ship_only/iaqg-podcast/)

(12) CB (Certification Body) Town Hall

CB Town Hallは、航空・宇宙・防衛分野の品質マネジメントシステム認証制度を運用する認証機関が互いに情報や問題共有を行うことを目的として定期的の実施されている会合である。今回の会議では、認証制度の運用に必要な9104シリーズ規格(3規格)および9101規格改正の進捗状況の確認、認証に関するOASISデータベースに関する確認・調整などが行われた。

4. おわりに

筆者はこれが3回目のIAQG会議出席となったが、毎回実に様々な各国・各地域の会社から参加していることに驚かされる。本稿第2項で述べたIAQGの活動を支えるボランティア熱量は相当大きなものであることを再認識した。

普段はそれぞれ国も地域も異にする別々の会社で働く人々が、一つのチームとなり共通の目的に向かって行動するのは、実に気持ちが良いものである。また、このような雰囲気はオンラインでは望むことはできず、直接会って物事を前進させようとする姿勢を共有することの重要性を毎回感じている。

今回の会議では9100規格の部分改正の方針が出されたこと、9101/9104審査移行の再開のための条件が整いつつあるという状況が明



サグラダ・ファミリア
(目視では写真から受けるイメージの10倍は大きく感じる)

確となったこと、OASIS Insightに関する説明もあったことなどを踏まえ、非常に内容の濃い会議となった。JAQGから各会議に参加された皆様には改めて感謝の意を伝えたい。

さらに、Single-SDO化のための課題となっていた翻訳作業についても、臨時にSAEとの調整会議が設けられ、直接対話により具体的な進捗を図った。こういったことも、関係者が一堂に会する会議ならではの成果である。また、OASIS Insightに関連して新たに設定されたDigital Innovation Feeについては、一定の説明を受けることができたと同時に、管理者および利用者の両面から日本側の懸念についても正しく伝えることができた。

会議開催場所となったシツチェスはバルセロナから小一時間のところにある地中海リゾートであるが、バルセロナと言えば、サグラダ・ファミリア（聖家族教会）が非常に有名である。数年前までは1882年の着工から完成までに300年かかると言われていたが、3DプリンターやCAD等のIT活用により工期が劇的に短縮され、現在では2026年の完成予定となっている。IT偉大なりである。

IAQGにおいても、デジタル化はキーワードとなっており、今後IAQG関連の規格類はコンピューターで直接取り扱う事のできる形式とされる。この狙いは、「シームレスな連携」、「種々のプラットフォーム」および「明確で分かりやすく」という事である。IAQGのYouTubeチャンネル（https://www.youtube.com/watch?v=U2b6cId_U3E&t=24s）に説明動画があるので、興味のある方は参照願いたい。

本章の冒頭で述べた通り、今回の会議では様々な決定や発表がなされており、JAQGではメンバー及びステークホルダーの皆様への情報共有が必要だと判断し、ゴールデンウィーク明けの5月8日（木）にオンラインによる臨時JAQG活動報告会を開催した。オンラインで400を超えるアクセスがあり、活発な質疑応答もあった。様々な変化がある中で、今後もタイムリーに情報共有を行ってゆく所存である。

なお、定期のJAQG活動報告会は来年2月、3年ぶりに中部地区で開催する予定としている。ぜひ多くの方にご参加頂きたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 城福 隆司〕